市制２０周年記念式典市長式辞

本日ここに、瑞穂市市制２０周年記念式典を挙行いたしましたところ、武藤容治衆議院議員様をはじめご来賓の皆様、多くの市民の皆様のご臨席を賜り、心より厚く御礼申しあげます。

平成１５年５月１日、県内１６番目の市として誕生した「瑞穂市」は、豊かな自然と先人たちが築いてこられた歴史や文化を継承しながら、都市と自然が調和する住みよいまちとして発展を遂げてまいりました。

当時は、およそ４万７４００人が暮らすまちでしたが、岐阜市や大垣市に隣接していることに加え、中京圏の中心である名古屋市まで３０分圏内に位置する恵まれた立地条件もあり発展を遂げ、現在の人口は５万６０００人を超え、人口の増加はゆるやかになっているものの、今もなお増え続けている活力ある瑞穂市となっています。

本日、皆さまとともに、市制２０周年をお祝いできることに大きな喜びを感じるとともに、今日の瑞穂市があるのは、ひとえに、ご臨席の皆様方の温かいご高配と、たゆまぬご努力の賜物であると、あらためて感謝と御礼を申しあげます。

後ほど、市政発展にご尽力とご貢献をいただいた皆様や、まちづくりに継続的な活動を積み重ねたご功績に、感謝の意を込め、表彰状ならびに感謝状を贈呈させていただきます。

さて、これまでの歩みを振り返りますと、「未来への育成」、「豊かな住環境」、「安全・安心」、「活力あふれるまち」を基本構想に、まちの将来像「誰もが未来を描けるまち　瑞穂」を実現するため、地方創生事業をはじめ、さまざまな施策を展開してまいりました。

ところが、新型コロナウイルス感染症という未曽有の危機に直面し、日常生活や社会・経済が不安定な状況のなかでの行政の役割というものを、改めて痛感いたしました。市民の皆様の健康と生活を守ることを最優先に、感染防止対策、ワクチン接種、地域の経済対策などを職員と一丸となって実行してまいりました。その反面、地域のつながりや住民自治の基盤である地域コミュニティが希薄化しつつあることが課題となりました。

コロナ禍の制約・制限が多い日常生活の中で、ＳＤＧｓの概念「誰一人取り残さないまちづくり」を進めるため、癒しの場や自分自身を取り戻す場として、地方創生の３つの拠点を、見える形で成長させてまいりました。

１つ目は、サンコーパレットパーク。令和４年４月３日にオープンして以来、定期的にイベントを開催するなど、子どもたちを中心に、関係人口や交流人口を増やす拠点として定着しております。

２つ目は、瑞穂市の玄関口であるＪＲ穂積駅周辺整備。ＪＲ穂積駅周辺整備基本計画を策定し、本巣縦貫道別府交差点の改良や、ＪＡぎふ穂積支店跡地を「エキサイト・サードプレイス」とし、若い世代を中心に人が集まり交流ができる広場と位置づけ、８月にオープンさせてまいります。

３つ目は、犀川遊水地グリーンインフラ基本構想。公共下水道事業を含めた自然豊かな水辺空間の良好な環境とスポーツやイベントなど賑わいを創出するため、７月から社会実験をすすめてまいります。

市民の皆様が多様性を認め合い、幸せを感じられる機会をたくさん創り出すことが私たち行政の役割だと考えております。人生百年時代を迎え、誰もが健康で生きがいをもち幸せな暮らし「健幸都市みずほ」を創ってまいります。

この２０周年を起点に「人権」「平和」「環境」の３つをテーマに掲げ、次世代を担う子どもたちが夢を描き希望を持てるよう、将来を見据えた「みずほ未来まちづくり構想」へと繋いでいく決意であります。

結びにあたりまして、本日ご多用のところご臨席賜りました皆様に、心から感謝の意を表させていただくとともに、皆様の益々のご活躍、ご健勝とご多幸をご祈念申しあげます。今後とも、皆様より一層のご支援とご協力をお願い申し上げ、瑞穂市市制２０周年記念式典の式辞といたします。

令和５年６月１１日

瑞穂市長　森　　和　之